

## ■第3回新宿区環境基本計画策定専門部会（平成24年5月10日）議事要旨

検討概要：平成24年度専門部会のスケジュールの確認、第二次環境基本計画策定及び区民・事業者アンケートについての意見交換

### 1 開会あいさつ

#### (1) 開会あいさつ

- ・野村部会長よりあいさつ。

#### (2) 出欠席者の確認

- ・事務局より出欠席者の報告を行った。（今回の欠席者：小野委員、瀧口委員、望月委員、工藤委員の4名）

### 2 議題

#### (1) 平成24年度新宿区環境基本計画策定専門部会のスケジュールについて

- ・資料1を用い、事務局より説明。

（質疑応答、意見交換）

- ・学生の意見を聞いて、特長を出すことは良いことだと思う。区民アンケートを別途で大学生にやってもらうとのことだが、ワークショップ形式の説明会などをやるのも一つの方法だと思う。そうすることによって、計画が出来上がった後でも、一緒に取組んでもらいやすい。（部会員）

⇒区民説明会なども予定しており、何かの形で直接意見を聞く場を設けるようにしたい。（事務局）

#### (2) 新宿区第二次環境基本計画策定に向けて

- ・資料2を用い、受託事業者より説明。

（質疑応答、意見交換）

- ・第1次計画では、区民による協働や参加などを基本目標の最初に持ってきたのが一番の特長であったと思う。今回は横断的分野ということで位置づけられているが、少し弱いイメージがあるので、ここを強調するのが大事だと思う。（部会員）

⇒第1次計画では他の環境要素と同列で、ひとつの柱として掲げていたが、参加や協働は全ての環境要素にわたるものであるため、強調するために横断的分野ということにしたが、計画書などでは強調したことをより見える形にしていく。（事務局）

- ・近年の環境問題はいろいろなものが複雑に絡み、個々の取組みでは収まらなくなっているため、横断的にやっていくことはいいことだと思う。ただし、横断的にやっていくためには、中身のしっかりしたプログラムを用意、提示しないとイケない。（部会員）

- ・誰が責任を持つのかを明確にすることと、どこかに要を作ることが必要である。エコギャラリーで様々な情報を集約し、さらに発信するという拠点機能をもっと持たせても良い。（部会員）

- ・今回の資料では具体的な中身がない分、新宿区の個性のところは抜けて落ちているイメージがある。何でもかんでもするのではなく、もっと選択と集中という視点を入れてもいいと思う。（部会長）

- ・資料3ページに示されている3つの計画策定の視点では、いかに新宿の特長を持たせていこうかということが良く出ていると思うが、それが基本目標や個別目標に落とし込めていない感じがあ

る。(部会員)

- ・前回までの専門部会で、新宿の特長として、中小企業への対応策、商業ビルの対策、昼間人口の多さ、港区など区外や大学等との連携があげられていたと思うが、この辺りをどうつなげていくかがポイントとなる。中小企業の事業活動が縮小するのではなく、インセンティブを与えながら、活発化させていくなどを考える必要がある。(部会員)
- ・生物多様性をまちの快適性の中に入れているのは新宿ならではのと思う。新宿区は都市の中でもみどりの量は多い方ではあるが、量だけの話なら緑の基本計画でもやっているのだから、環境基本計画としては、みどりに囲まれた暮らしとか、みどりを活かした暮らしといった視点から議論を深めていくと良いと思う。(部会員)
- ・新宿区は世界の中でも成熟した都市であり、発展途上にあるまちの見本となるような誇りあるプランにしていきたい。(部会長)
- ・エネルギーの地産地消という言葉について、エネルギーリスクに対するものとして使われていると思うが、全てを新宿で作るとするのは無理があると思うので、地産地消という言葉の基本目標のキャッチフレーズに持ってくるのはどうかと思う。どちらかという、分散型エネルギーと言ったように地域に根ざしたエネルギーを考えていくといったような表現の方が良いのではないかな。(部会員)
- ・3Rの一本化とあるが、リデュースとリサイクルは全く違うものだと思うので、表現なども含めてもう少し整理した方が良いと思う。(部会員)
- ・昼間人口が2倍になるということは無視できないと思う。外国人も含めて、区在住者以外の人たちがどのように環境に関わっていくかということを経験できたらいいと思う。
- ・具体的な記述がないためか、環境基本計画で何を目標しているのかが分かりにくい。誰が何をどうやるのかを明確にして、みんなが自覚できるようなものになると良い。(部会員)
- ・新宿区内で、誰がどの場面でどうやるのかを、大きい柱とリンクさせながら整理しないと行けない。(部会長)
- ・エネルギーリスクの話だが、再生可能エネルギーのところに入っているが、もうひとつ上のテーマにして議論してもいいと思う。(部会員)
- ・基本目標3の公害対策などは引き続きやっていくのか。工業系用途の多い大田区などと違い、新宿区で何を問題視するのかがあまり明確にならない項目ではないか。(部会長)  
⇒騒音対策やまちの美化などは引き続きやっていく項目ではあると思うが、臭気問題など商業活動にも起因している問題も増えている。(事務局)
- ・それらの問題には地域性があると思うので、地域によって扱い方を変えていってはどうか。(部会員)
- ・商業活動は新宿の魅力のひとつでもあるので、それらとうまくバランスをとりながら方策を検討していく必要がある。(部会長)
- ・有害物質についてはどこまで取り扱うのか。リスクコミュニケーションなどによるリスク管理までとするか、実態を把握して低減まで持っていくのか。(部会長)  
⇒法制上はキッチンとやってもらっていると思うが、まずは実態を把握し、除けるものは除いていこうというスタンスではある。(事務局)
- ・エネルギー対策については、エネルギービジョンなど専門的に取り扱う他の計画は無いのか。(部会員)

⇒他に計画はないので、この環境基本計画である程度の位置付けはしていくことになる。(事務局)

### (3) 新宿区第二次環境基本計画策定に関わる区民・事業者アンケートについて

- ・資料3を用い、受託業者より説明。

(質疑応答、意見交換)

- ・アンケート結果の分析で属性などのクロス集計をすると思うが、これでは標本数が不足していると思う。また、郵送でのアンケートとwebアンケートでは抽出方法などが異なるため、単純に合算して集計しない方がいいと思う。(部会員)

⇒全数分析としては問題ないと思うが、地区別など細分化すると標本数が十分で無いかと思われる。ただし、今回は統計的な有意性を求めているものではなく、検討材料の一つとして大きな方向性や傾向などが分かればよいかと考える。(事務局)

- ・生物多様性の質問を特出ししているが何か意図があるのか。(部会員)

⇒新たな視点であることと、地球温暖化やエネルギー問題などは既存アンケートが充実しているが、自然に関するアンケートはほとんどやられていないので、今回特出した。ただし、言葉自体がわかりにくいと思われるので、生物とのふれあいなど表現を工夫したい。(事務局)

- ・アンケートの結果があまり計画に反映されないことが多いが、アンケートの結果を計画のどこに反映させたいのかを明確にして調査票設計をしてほしい。また、結果のグラフなどを計画書の本編にも織り込むなど工夫してほしい。(部会長)

- ・普通の区民が判読できないものが多い。やさしい表現にしてもらってはいるが、逆にわかりづらくなったところもある。(部会員)

- ・新宿力のアイデアをいきなり聞いている設問もあるが、そもそも新宿力があまり認知されていないと思うので、前段で認知度を聞いてみるのもいいと思う。(部会員)

- ・webアンケートについて、アンケートに答えている人が、全体の設問量のどのあたりまできているのが分かるような工夫をしてほしい。(部会員)

- ・設問番号の後の表題が重要だが、ここが固い表現だと構えてしまう人もいる。表現検討の際に考慮いただきたい。(部会員)

- ・事業者アンケートの属性のうち、操業年数とあると、区内での操業年数とした方が良い。(部会員)

- ・事業者アンケートで、グリーンイノベーションという言葉があるが、まだ一般的な言葉ではないので筆がすすまない可能性がある。また、問7でメリット、デメリットとあるが、何を書いたらいいか分かりづらく、経営面や立地条件など本来の趣旨から違った回答となってしまう恐れがある。再考いただきたい。(部会員)

- ・区在住者だけでなく、昼間に来る人たちに聞く方法はないか？(部会員)

⇒昼間人口の意見聴取は対応するのが難しいが、可能な範囲で対応していきたい。今後、地域説明会を開催するが、これは区内通勤・通学者なども対象としている。また、大学生にアンケートをお願いするが、その対象となる学生も昼間人口と考えられる。(事務局)

- ・表現や設問内容については再考して、部会長などには再度確認してもらいたいと思う。また、ご意見などあれば、メールでも構わないので寄せてほしい。(事務局)

### (4) その他

- ・今回の概要について、5月22日に開催される環境審議会で報告する。また、審議会資料について

- は、極力、今回の議論を受けて修正したものを提示したいと思う。
- ・次回の専門部会は7月上旬を予定している。

以上